

## 2021年度第1回 にいがた摂食嚥下障害サポート研究会主催 第1回講演会

### 【日時】

2021年5月29日(土) 13:00~17:10 (予定)

(本研究会会員の方は、12:30から総会がありますので、ご参加ください)

### 【場所】

新潟大学有壬記念館(新潟市中央区旭町通1-757)

### 【タイムスケジュール】

12:00 受付開始

12:30 にいがた摂食嚥下障害サポート研究会会員総会

13:00 開会挨拶

にいがた摂食嚥下障害サポート研究会会長

13:05 **講演 「摂食嚥下機能を考えること・摂食嚥下障害の支援を考えること」(60分講演, 10分質疑)**

座長 真柄 仁先生(新潟大学医歯学総合病院 摂食嚥下機能回復部)

講師 井上 誠先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野)

14:15 企業紹介

14:30 **講演 「在宅医療における歯科衛生士の役割」(60分講演, 10分質疑)**

座長 辻村恭憲先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野)

講師 渡邊理沙先生(医療法人静心会桶狭間病院藤田こころケアセンター, 歯科衛生士)

15:40 企業紹介

16:00 **講演 「医療従事者が知っておくべきサルコペニアとは」 (60分講演, 10分質疑)**

座長 中尾真理先生(東北大学病院リハビリテーション科, 医師)

講師 吉村芳弘先生(熊本リハビリテーション病院サルコペニア・低栄養研究センター, 医師)

17:10 閉会挨拶

井上 誠先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野)

## 講演要旨および講師略歴

いのうえ まこと  
**井上 誠先生**（新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野，歯科医師）

### <抄録> 「摂食嚥下機能を考えること・摂食嚥下障害の支援を考えること」

摂食嚥下運動について，単なる顎口腔顔面や咽喉頭の機能として捉えるのではなく，ことに臨床を進めるにあたっては，食べることを楽しみと捉えた高次脳機能の関与，呼吸などの周辺機能との機能連関を考慮すべきです．今回，これらの機能について，教科書には記載されていない近年の基礎・臨床報告なども含めて解説するとともに，高齢者を中心とした摂食嚥下障害に対してあるべき取り組みの姿について，皆さんと一緒に考えてみたいと思います．

### <略歴>

- 1994年 新潟大学歯学部 卒業
- 1998年 新潟大学大学院歯学研究科 修了（博士（歯学））
- 1998年 新潟大学歯学部口腔生理学講座 助手
- 1999年 英国レスター大学 Research fellow
- 2003年 スウェーデンウメオ大学 Research fellow
- 2004年 新潟大学医歯学総合病院摂食嚥下機能回復部 講師
- 2006年 新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下障害学分野（現摂食嚥下リハビリテーション学分野）助教授
- 2008年 新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授

わたなべ りさ  
**渡邊 理沙先生**（医療法人静心会桶狭間病院藤田こころケアセンター，歯科衛生士）

### <抄録> 「在宅医療における歯科衛生士の役割」

2025年を目前に迎え，在宅医療の提供量も増加傾向にある．要介護認定者の18%は摂食嚥下障害を有しており，うち40%は在宅療養患者であるという報告がされていることから，在宅医療に関わる歯科衛生士は“食”への支援を含めた対応が必要であり，その需要は今後さらに高まることが予想される．

本講演では，実際の介入例を提示しながら，在宅医療における歯科衛生士の役割を参加者との共通認識に繋がる場にしたいと考える．

### <略歴>

- 2006年 専門学校 宮城高等歯科衛生士学院 卒業
- 2021年 東北大学大学院歯学研究科修士課程 卒業
- 2006年 藤田保健衛生大学病院（現 藤田医科大学病院）歯科口腔外科 常勤
- 2017年 前田デンタルクリニック 非常勤
- 2019年 医療法人静心会 桶狭間病院藤田こころケアセンター歯科 常勤
- 2019年 朝日大学歯学部口腔病態医学講座障害者歯科学分野 非常勤助教
- 2021年 朝日大学歯学部口腔病態医学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野 非常勤助教

### <抄録> 「医療従事者が知っておくべきサルコペニアとは」

サルコペニアとはギリシャ語の「筋肉」を表す“サルコ”と、「喪失」を表す“ペニア”を組み合わせた言葉で、筋肉量が減少し、筋力や身体機能が低下している病的な状態(=疾患)です。転倒・骨折、寝たきり、認知機能低下、嚥下障害、口腔機能低下などの原因にもなるため、十分な栄養の摂取や、体力維持・筋力増加のための運動などによりサルコペニアを予防することが重要です。

### <略歴>

2001年 熊本大学医学部卒業  
2013年 熊本リハビリテーション病院勤務  
2020年 同サルコペニア・低栄養研究センター長

### <所属学会>

日本リハビリテーション医学会(指導医, 専門医, 認定臨床医), 日本サルコペニア・フレイル学会(理事, 学会誌編集委員長, 2017年度版サルコペニア診療ガイドライン作成委員), 日本臨床栄養代謝学会(代議員, 学術評議員, 国際委員, 指導医など), 日本リハビリテーション栄養学会(理事, 2023年度版リハ栄養診療ガイドライン統括委員長など)